

ひとが輝くまち



YUZA Town Public Relations

広報

ゆざ

平成30年 No.683

1



今月の話題

年頭のあいさつ 2P

新春座談会「町に豊かさをもたらす

新たな産業振興について夢を語る」 4P

Uターン促進事業第4弾! 11P

山形ふるさとCM大賞2連覇を達成!! 13P

ほか

オール遊佐の英知(町民力) を結集し、未来につながる 取り組みを



皆さま方には、輝かしい平成30年の新春をさわやかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、「これまでの取り組みが着実に実を結びつつある」と思えるような、遊佐町にとってうれしいニュースが多くありました。

いくつか紹介しますと、我が遊佐町が、移住・定住の施策や産業振興、ジオパークの取り組みや環境への配慮など多岐にわたる成果が評価され、地方自治法施行70周年の記念式典に合わせ、総務大臣表彰をいただくことができました。

また、「里の名水・やまがた百選」では、新たに丸池様、牛渡川・荒川地区、釜磯海岸、滝の水（滝ノ浦）が指定され、これまでの、神泉の水、胴腹滝、鳥海三神の水（三ノ俣）と合わせ7カ所となりました。これは、ジオパークに認定された鳥海山の恩恵に他ならず、これからも、水循環の保全をはじめとした環境の保全に取り組んでいかなければならないと認識を新たにしましたところであります。

さらに、「山形ふるさとCM大賞」では「日本でイチバン大きい数の町」が大賞に輝き2連覇を達成するなど、情報発信についても成果が表れてきており、引き続き遊佐町のすばらしさを町内外に発信し続けたいと思っております。

昨年からスタートした遊佐町総合発展計画（第8次遊佐町振興計画）では、「オール遊佐の英知(町民力)を結集」を理念に掲げ、事業を進めております。庁舎改築やパーキングエリアタウンなどのプロジェクトにも、町民の皆さんとともに遊佐町の将来像を描きながら取り組んでいきたいと思っております。

これからも、「子どもたちの夢を育むまち」、「働き場・若者・賑わいのあるまち」、「自然と調和した安全・安心・快適なまち」の実現のため町政運営に努めてまいりますので、皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年もまた皆さまにとって、より良い年でありますようご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。

遊佐町長 時 田 博 機

地方自治の発展に 取り組む決意新たに



新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまと輝かしい新春をともに迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

昭和22年5月に憲法と同時に施行された地方自治法が、昨年施行70周年を迎えました。それまでの中央政府による官僚統制を廃止し、地方住民の政治参加の権利の保障と地方自治体の自主性・独立性を図る新しい地方制度で、地方自治体や地方議会の権限などが強化されました。施行70周年というこの大きな節目は、改めて地方議会の果たす役割が何なのかを考えさせられるとともに、地方自治の一層の発展に取り組む決意を新たにいたしました。

さて、全国的に人口減少が始まり、少子化や高齢化の進展が叫ばれるようになり久しくなります。様々な対策が施されてきましたが、その解消は難しいのが現実であります。しかし、何もせず手をこまねいていけばじり貧を免れないのもまた現実です。本町においても人口減少に歯止めをかけ、生き生きとした活気溢れる町をめざす「地方創生」を実現させることが最重要課題となっております。その中心的な役割として期待される日本海沿岸東北自動車道 遊佐鳥海IC（仮）の整備予定箇所も姿を現すようになりました。完成した暁には本町の豊かな地域資源、海・山・川そして名所・旧跡などをめざして、多くの利用者がこの遊佐鳥海ICから町内各所を訪れている光景が浮かんで来るようです。また、昨年は鳥海山大物忌神社第16回本殿式年遷宮が行われ、新しい年は鳥海山の更なるご加護が町内隅々までもたらされるものと思っています。

議会は予算案などの議決のみだけでなく、本町の特性に応じ創意に富んだ「地方創生」への取り組みや、今後想定される様々な問題、不安への対応などに、町民の皆さまの知恵もいただきながら積極的に取り組んでいかなければならないと思っております。そして、議員一人ひとりが議会の果たす役割を認識し、町民の皆さまの負託に応えていく努力と活動を行ってまいります。

結びに、本年も町民の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、町民の皆さまにとりまして実りの多い飛躍の年になりますようご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

遊佐町議会議長 堀 満 弥



新春座談会

『町に豊かさをもたらす 新たな産業振興について夢を語る』

太陽光発電や風力発電、木質バイオマス発電などの再生可能エネルギー事業や、アワビ・サクラマスの陸上養殖事業、県内初のウイスキー工場の新設など、遊佐町の産業には今、新しい風が吹き込んでいます。

今回は、町の産業振興に関わる方々を交え、『町に豊かさをもたらす新たな産業振興について夢を語る』と題して座談会を行いました。

司会



- 開催日／12月4日(月)
- 場 所／ハントシストア（エルパ内）
- 参加者（順不同、敬称略）

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ① マルハニチロ株式会社 中央研究所 リサーチ二課 課長役 | 圓谷 猛 |
| ② 株式会社 金龍 代表取締役 | 佐々木雅晴 |
| ③ 鳥海温泉 遊楽里 副支配人 | 石垣由美子 |
| ④ 遊佐町長 | 時田 博機 |
| ⑤ 遊佐町商工会 会長 | 本間 知広 |
| ⑥ 荘内電気設備株式会社 代表取締役 | 阿部 敦 |
| ⑦ 司会 地域おこし協力隊 | 高橋可奈絵 |



遊佐町における産業

司会（高橋）／本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。司会を務めます、地域おこし協力隊の高橋可奈絵です。どうぞよろしくお願いします。まず、町長から本日のテーマについて一言お願いします。

町長／町の産業は、これまで稲作を中心にした成り立ちでしたが、近年は農林水産業・商工業の力によって成り立つ形をめざしていかねければと思っています。そのために、生業づくりの支援を整えていかなければなりません。

新たな産業振興

司会／本日は町で新たな産業に参入される企業の皆さんに参加していただいています。遊佐町で事業を行う魅力や、なぜ遊佐町で事業を行おうと考えたのか、お伺いしたいと思います。

圓谷（マルハニチロ）／サクラマスの陸上養殖試験を遊佐町で行うことになりました。下関水産大学の准教授から「サクラマスは山形県の県

の魚だし、遊佐ではアワビの陸上養殖もしている。水も良いところですよ。」とご紹介いただき、遊佐町にお願いさせていただきました。まだ試験研究を始めたばかりですが、なんとか成果を出して町の産業に貢献できたらと思っています。

佐々木（金龍）／遊佐町に工場を新設してウイスキー事業を開始したいと考えています。

その理由ですが、まずは非常にきれいな水ですね。遊佐には鳥海山の良質で豊富な伏流水があり、適地はここしかないとなりました。

雄大な鳥海山の景観、新鮮で澄んだ空気も理由になりました。実は、ウイスキーは樽を通して呼吸をして

株式会社 金 龍

焼酎「爽」「さわやか きんりゅう」で有名な、酒田市黒森に本社を置く焼酎製造会社。この度、新たに遊佐町でウイスキー事業に着手した。ウイスキーが熟成し、完成するまでには時間が掛かるが、県内初のウイスキー蒸留所として期待がかかる。



います。遊佐の新鮮な空気が、ここでは作れないオリジナリティを生み出してくれると思っています。訪れるものを魅了する圧倒的な存在感、そんな景観もポイントでした。

すでに工事がスタートしており、10月頃から蒸留を開始する予定です。ウイスキーの熟成が完了するのが3年後。将来的には10年から20年物のウイスキーをメインに、県内、国内はもとより、世界に発信していきたいと考えています。

阿部（荘内電気設備）／平成27年に杉沢地区に太陽光施設を作らせていただきました。私は遊佐町生まれの遊佐町育ちです。町の特色のあるものをと考え、今回の施設を作らせていただきました。

「何もない町、だからこそ何でもある」という所に重きを置いて、地域住民としても町の産業に参画させていただければと考えながら活動しています。今後、遊佐町でも太陽光発電だけではなく、バイオガス発電などにも取り組ませていただき、地域の活性化を図らせていただければと考えています。

本間（商工会）／商工会についてですが、時代の流れで会員数は減少傾向にあります。そんな中で何ができるのか、というところを考え、地

域のために役に立っていかねばと考えています。

行政とも連携を取り、さまざまな施策を実施していますが、今後は既存の形では対応しきれないような部分も出てくると思います。この地域で仕事をしたい、と思うような取り組みを考えていかなければと感じています。

遊佐町商工会

「商工会は行きます 聞きます 提案します」をスローガンに掲げ、町内事業所の経営支援をさまざまな形で行う。また、ゆづ町民盆踊り大会などのイベントや米～ちゃんカードなどの取り組みで、地域の活性化についても熱心に取り組んでいる。



町にこれだけの新しいことが入ってくるというのは、本当に楽しみです。大きな刺激になると思いますので、商工会としても期待に応えられるようにしたいです。

石垣（遊佐町総合交流促進施設株式会社）／近年は岩ガキや鮭の不漁が続いています。サクラマスやアワビ

の養殖事業に取り組まれているというところで、大変期待しています。遊樂里のメニューや、ふらっとで商品として取り扱わせていただくなど、PRや新たな開発にもつながればと考えています。

鳥海山・飛島ジオパークの認定を受け、当社でも新たな商品価値を生み出す課題に取り組んでいます。また近い将来、(仮)遊佐鳥海インターチェンジができますので、サービスイリア・道の駅ができることに期待しておりますし、そこから町の観光地へ足を運んでいただけるようになれば、相乗効果を見込んで情報発信していけると考えています。

地元の人はあまり気がつかないかもしれませんが、遊佐町はお米がとってもおいしいく、観光客のお客様からの評判が良いです。自然・食材なども産業の一つとしてPRしていければと思います。

司会／私も4月に移住してきたのですが、本当にお米が美味しくて「ごはんでおかずが食べられる」と感じています。

コラボレーション

司会／ここまでのお話を聞いて、事業を展開していくにあたり他の企業

とやりたいことなどはありますか？

佐々木／現在、どんな風にウイスキーを販売していくか相談しているところなんです。世界にウイスキーを売っていくには、自然や水・空気はもちろんですが、人や文化なども含め、魅力的な所でウイスキーを作っているということを発信していく必要があります。新たな産業も、新たな町の魅力となると思いますので、ぜひ情報発信に取り組んでいただきたいです。

町長／民間の皆さんからも、町の魅力発信が重要と考えていただけると非常に心強いです。

一昨年、鳥海山・飛島が日本のジ

マルハニチロ株式会社

国内外に153社の拠点を持つ、世界で活躍する「食」のグローバルカンパニー。世界最大規模の水産物調達力を誇る企業として知られている。遊佐町では、農研機構生研支援センターの委託研究という形で県の魚でもあるサクラマスの上陸養殖試験に取り組んでいる。



マルハニチロ

鳥海山・飛島ジオパーク



ジオパークとは貴重な自然遺産と、そこに暮らす生態系や人々の文化が結びつくところのこと。鳥海山を囲む4つの自治

体が連携して取り組んできた鳥海山・飛島ジオパークは、平成28年9月に日本ジオパークに認定された。



オパークに認定されました。ジオパークを中心にした広域の魅力を発信していくことの重要さも感じています。魅力あふれる地域だということをもう一度認識して、発信できればと思っています。

圓谷／まさに、ジオパークの中に施設を作らせていただいています。陸上養殖は海面養殖と比較すると、環境への負荷が少ない養殖です。サクラマスの陸上養殖技術のノウハウを確立し、遊佐町で陸上養殖されたサクラマスをもっと日本全国のみならず、将来的には世界に輸出できるようになるならば、強いアピールになると思っています。

ただ、サクラマスの陸上養殖に成

荘内電気設備株式会社

再生可能エネルギーの活用に入力する、酒田市大宮町に本社を置く電気事業会社。平成27年に遊佐町に太陽光発電施設と、次世代エネルギー体験型施設「えねこ館」を開設。「エネルギーの地産地消」から地域の活性化に取り組む。



阿部／企業の方が町の自然・環境を評価して町に来ていただけているというのは、すごくありがたいです。マルハニチロさんや金龍さんが取り組める事業は、自然を活かし、また自然にやさしい、まさに町に必要な産業だと思っています。

どんな事業でも必ず電気が必要になってくるので、僕はエネルギーラインをしたいなと思っています。自分たちで使うエネルギーは自分たち

功してからのお話ですね。ちょうど金龍さんのウイスキーが3年後ということでしたので、お酒のお供に例えばサクラマスのスモーク等でコラボレーションなどできたら面白いかなと考えています。

で作る、エネルギーの地産地消を通して、地域の活性化を進めていければと考えています。遊佐町はそういうことが行える地域なので、僕は宝の山だと思っていますね。

司会／アワビの陸上養殖など、町が主導で行っている事業もあるんですよね。

町長／町主導というよりも、人と人をつなげるような施策をする必要があると思っています。アワビの陸上養殖も、今はまだ実験段階です。すべて成功しているわけではありませんが、チャレンジしていくということが肝心です。ただし、町民の生活にリスクが無いように進めていくことは必要だと思っています。

司会／（金龍さんへ）ウイスキー工場が完成したら、従業員等の予定も決まっていますか？

佐々木／新入社員を採用して4名からスタートする予定です。知識が必要なので、事前に研修を行い、その4名を中心に規模を拡大していきたいと考えています。工場にはウイスキーの本場スコットランドの設備を設置するのですが、設備設置後にもスコットランドの指導者から3週間ほど滞在していただく予定です。

司会／宮城のウイスキー工場では、カフェやお土産屋さんなどもありますが、そのような構想はありますか？

佐々木／観光事業はまだ手つかずでこれから検討ですね。最初はウイスキーを作る人員しか配置しませんし、何より物ができていない状態では、工夫が必要かなと思います。



遊佐町の道の駅「鳥海ふらっと」

阿部／でも3年後になって、ウイスキーができて動き出したら期待できますね。

佐々木／まだまだこれからですね。ウイスキー工場だけではなく、ふらっとなどの施設も活用できると思います。

ます。まだ全く白紙ですが、相談しながらやっていければと思います。

司会／新たな産業が生まれることにより、既存の産業や経営戦略などについても刺激を受け、活性化につながるとは思いますが、いかがでしょうか。

町長／企業が活性化すれば働き場が増え、住む人も増えるのは当然の流れです。企業に対する支援をしつかり行い、支援制度が無いなら作る、という発想でやっていかなければならないと思っています。

工業団地では活発な企業活動が見られますが、酒田北港と工業団地をつなぐ国道7号線が片側1車線しかないという弱点もあります。7号線の複線化を実現できれば、北港と工業団地が一体化し、新たな取り組み



サクラマスは平成4年に県の魚として制定されています。

ができるのではないかと考えています。

産業戦略・支援制度などを充実させ、新たな発想を加えていかなければ地域が生き残るのは難しいです。改善してほしい制度がありましたら、どんどん相談してください。

本間／ウイスキー工場やサクラマスとのコラボなど、すぐきらきらしていますね。制度に限らず、少しでも良くしてほしいと提案するのは、相互理解の下でやっていくことが大切だと思います。近年はそういった動きが活発になってきたように感じますが、提案する側だけでなく、受け入れる側も応じることのできるように、商工会としてもしっかり取り組んでいきたいと思っています。

新たな産業に求めるもの

司会／新たな産業に求めるものなどありますか？

本間／そうですね。本格的に、世界に向けて発信できる材料が着々と増えていっている気がして、すごく期待が持てます。

阿部／先ほど金龍さんがスコットランドという話をしましたが、当

社で取り扱っているバイオガスはドイツが本場。世界はプライドを持って「こちらの基準に合わせてください」というスタンスを取ります。そんな所に、日本基準・遊佐町基準で挑戦するというのはすばらしいし、大変なこともあるでしょうが面白いと思います。

遊佐町総合交流促進施設株式会社

今年で20周年を迎える、道の駅鳥海「ふらっと」や鳥海温泉遊楽里などの、町の観光施設の指定管理を受ける第3セクター。地元食材で魅力を発信し続ける道の駅「鳥海ふらっと」は、東北6県144か所の道の駅の頂点に輝く最優秀賞を獲得した実績を持つ。



町長／マルハニチロさんはすでに世界でもトップで活躍されていますよね。

阿部／そういった世界を見ている企業が、遊佐町に集約するというのはすごいです。そこからまた発信できるものもあると思います。

本間／情報を発信するといっても、

中身が伴っていることが大切です。その中身がどんどん充実してきていて、良い流れが出てきたと感じますね。

阿部／先人がずっとやってきたおかげでもあるし、新しいことに取り組んでいったことも相まって成果が表れてきているのだと思います。私は父から「わっげうちははだらげよ」と言われたのですが（笑）。

本間／返す返す、ここにいと当たり前なんですよね。良さというのが、近くにいと見えない。

石垣／韓国からのお客様がよくいらつしやいますが、遊佐町がすごく良い所だと言っていただけです。夕日の沈む西浜海岸を見て、お客様は



十六羅漢は海外からのお客さまからも人気です。

拍手をしてくれるんです。二ノ滝や十六羅漢、去年はアマハゲを見にもいきましたが、こうした自然や伝統の中で生活できるのは幸せなんだなと感じます。遊佐町の「ここでしかできない」という所を、観光を通してもっとPRしていくことができればなあと思いますね。皆さんから作っていただいた商品をPRすることしかできませんが、皆さまのお力になればと思います。



パーキングエリアタウン構想イメージ図。地域の産業・観光の発信・連携・発展拠点となる整備をめざします。

司会／町には道の駅鳥海ふらっとという人気の道の駅がありますが、将来高速道路が通るに際し、パーキングエリアタウン（P.A.T.）の構想もあります。P.A.T.の計画に期待することはありますか？

石垣／詳細はまだまだこれからだと聞いています。現在の道の駅でも地元の食材を使った料理や商品などに好評をいただいております。新たに整備を検討しているP.A.T.が、さらに遊佐の魅力を発信できるような中心拠点となることを期待しています。完成したウイスキーなども取り扱えると良いですね。

司会／サクラマスをおつまみにセツトで、とかも良さそうですね。

閑話…えねこ館

司会／荘内電気設備さんが「えねこ館」という、子供たちが体験できる施設があるという話をお聞きしたのですが。

阿部／「えねこ館」は太陽光発電所の敷地内にありまして、子どもたちの学習・体験や、地域のさまざまなイベントに活用させていただいています。再生可能エネルギーの仕組みを体験しながら、地域づくりの役に立つ施設になればと思っています。

司会／太陽光発電をしている所で、再生可能エネルギーの体験学習ができる施設なんですね。

阿部／そうですね。太陽光や風力、バイオガス発電の模型などが置いてあり、「再生可能エネルギーってどういうものなの？」ということが勉強できる施設となっています。遊佐町はほとんどの再生可能エネルギーを網羅している町で、勉強し甲斐がある地域ですので、ぜひご活用ください。

町としての今後の取り組み

司会／産業振興について、町として今後の戦略や取り組みなどはありますか？

町長／昨年、酒田港に海外の豪華客船が来航しましたが、残念ながら遊佐町まで来ていただいた方は多くはありませんでした。鳥海山・飛鳥ジオパークもありますので、より広域で観光客呼び込む手立てを考える必要があると感じています。

農業でいえば、お米の消費が毎年落ちていきます。実は今、パックごはんを作れないかと取り組んでいます。パックごはんは炊飯器を使わないので、若者や高齢者にも親しみやすく、海外の方にも愛されるかもしれません。この先は、パックごはんのような新しい視点も必要になってくると考えています。

鮭のふ化場についても施設が新しくなり、3年後には漁獲量の増が見込めます。その活用方法として、ハンガリアンテイストの鮭のサーモンソーセージができないかと考えています。遊佐にしかないものではないかもしれませんが、遊佐しかチャレンジしないものの取り組みを続けていくことが大切だと思っています。



遊佐町はハンガリー・ソルノク市と友好都市です。

遊佐町は鳥海山のきれいな水と空気に恵まれ、作ることは得意ですが、売ることが少し苦手です。企業の皆さんからアドバイスをいただきながら進められればという思いです。

将来の夢

司会／最後に、町でのこれからの取り組みについて、展望や夢など熱い思いをお話ししていただければと思います。

佐々木／遊佐町でしか作れないウイスキーを作る、世界が憧れるようなウイスキーを作ってみせる、ということですね。遊佐という町の魅力をたっぷりと凝縮したものを、ただひたすらに、ひたむきに探究していきたいと思っています。

先進の事例としては、例えば埼玉県秩父市では市と提携して秩父ウイスキー祭りを開催しています。遊佐蒸留所でも、何かそのような形で取り組みができればいいのかなと考えています。



埼玉県秩父市では「秩父ウイスキー祭」といった取り組みも行われています。

司会／おしゃれな街になりますね。若者の交流にも活用できそうです。

阿部／再生可能エネルギーとは、利用しても自然の力によって補充されるエネルギーを循環させていくことだと思っています。遊佐町はエネルギーの宝庫だと思えますので、そのエネルギーを使って町を活性化していくというのが、私の夢です。町にあるものを全て活用して、エネルギーの地産地消、循環型の仕組みを作る事が最終目標です。

遊佐電力として、企業の方にも遊佐産のエネルギーも活用していただければと思っています。

圓谷／サクラマスの陸上養殖試験施設の隣に、町のアワビの陸上養殖試験の施設がありますが、将来的には複合養殖という形で取り組めればと考えています。実はマルハニチロではエゾナマコの種苗生産をしており、アワビの養殖施設にナマコを入れてみませんか、という取り組みをしているところなんです。将来的な夢としては、食材的にも高級食材で揃えられたら、まずは地産地消からとはなりますが、遊佐町の特産としても面白いのではないかな、と考えています。

町長／マルハニチロさんが場所を決めるにあたり、遊佐町が地理的に近いから、という話を伺いました。養殖場と空港との距離が、他の候補地と比べて近いということなのですが、

遊佐町が都会から『近い』という評価をされることは初めての経験でした。今後は高速道路が通る計画もあり物流も変わってきますので、『遊佐町は遠い』というイメージを切り替えた発想は、私たちも持つ必要がありますね。



空路で考えると、遊佐町は近い…?

阿部／庄内空港まで約1時間、秋田空港まで1時間15分ほどなので、どこにでも行けますからね。

圓谷／空輸する前提でのスタートなので、ある程度高級なものを作る必要があります。先ほどのサーモンソーセージという話もありましたが、魚肉ソーセージと言えばマルハニチロの範囲でし、中央研究所内には新規商材を開発している部署もあり

ます。養殖以外の部分でもコラボができれば、ここでも買えないものが作れるのかなと思います。

町長／昔は鮭が獲れすぎると、肥料や餌にしていた時代もありました。何とか活用できないかという想いで、ハンガリアンテイストという他にはない発想で取り組んでいければと考えました。ぜひともご指導いただければと思います。



鮭の漁獲量は近年は落ち気味。

石垣／遊佐町のことを多くの方に知ってもらうことが使命だと思っています。仙台圏くらいまでなら遊佐町の場所も分かるようですが、首都圏まで行くと「遊佐町ってどこ？」となってしまう。将来的に高速道路が完成した際に、サービスエリアア

として全国に情報発信をしていけるようになればと考えています。

あとは、皆さんから作っていた食材を加工・調理する、惣菜加工センターのような施設がわが社にあれば、もっといろいろな形で町の食材の良さを伝えることができるのかなと考えています。

本間／商工会は3次産業、いわゆるお店の方が多いのですが、お店側の取り組みだけでは解決できないような問題も多いです。地域の1次産業、2次産業とうまくかみ合わせることができれば、だんだんと大きな形に育っていくのではないかと思います。何か一つきっかけがあれば、次へ次へとつながっていくと思いますので、新しいことにチャレンジすることができ、新しいことを受け入れて行ける地域になれるように、頑張っていきたいです。

阿部／今の町長はチャレンジに前向きな方で、そんなチャレンジスピリッツが企業の受け入れにつながっている部分もあると思います。遊佐町の恵まれた自然環境だけではなく、自治体としての取り組み・まちづくりも評価されているのではないかと。

私は、町外で取り組んだ事業で得たものを、町での事業でも活用でき

ればと思っています。他の企業の皆さんも遊佐町でチャレンジしていただいているわけですので、町としても応援していただきたいですね。



今回の会場は『チャレンジショップ』ハントシストア。

時田／10年先を見据えるのであれば、今から取り組んでいく必要があります。若い力をしっかりと育て、将来に向けて町がしっかり自立できるような体制を構築するのが、われわれの役目ではないかという思いを強くしました。

まずは、ネバーギブアップの精神で頑張らしましょう。本日は本当にありがとうございました。

一同／ありがとうございました。

11.25 「遊佐町のいくら丼と 庄内風芋煮を味わう会」開催

menu

遊人会×遊佐町の企画「遊佐町のいくら丼と庄内風芋煮を味わう会」を、東京駅丸ビルのYamagataバールDaedokoを会場に開催しました。遊佐町出身の若者8人と、そのご家族やご友人たち15人の計23人が集まり、遊佐町の秋の味覚を堪能しました。



遊佐のお酒で乾杯!

いくら丼と芋煮をメインに、遊佐産のソテーと木くらげのサラダ、紅あずまのスティック揚げ、平茸のピザなど、遊佐の食材をふ

んだんに使った料理が次々と登場! 地域おこし協力隊による古民家カフェ整備事業やふるさとCM大賞、ふるさと納税に関するクイズで盛り上がりました。

Uターン促進事業は、年に2回開催しています。遊佐町出身の方からは遊佐町の魅力を再発見してもらい、ご家族ご友人にたくさんPRしていただきました。この事業を通じて、遊佐町を知らない方からは行ってみたい町として、また出身者からはUターンを考えてもらえるよう継続して開催していきます。



いくら丼、いただきます!

● 企画課 定住促進係

☎ 2818257

いざー! 全国大会へ!

吹浦クラブ 東北フリスケットボール選手権大会優勝 「走り勝つバスケット」で全国へ

11月17日(金)～19日(日)に福島県郡山市で行われた第31回東北クラブバスケットボール選手権大会で、吹浦クラブが見事初優勝を果たし、全国大会へと駒を進めました。「吹浦クラブは身長が低いチームなので、走って勝てるように日々ハードなトレーニングに取り組んでいます。全国大会ではこれまで支え続けてきてくれた方々に感謝しながら、吹浦クラブらしい走り勝つバスケットをいただきました。全国大会は3月10日(土)～12日(月)に、佐賀県佐賀市で開催されます。」



家族や地域・後援会の皆さま、OBの方々に支えられながら活動しています。

ビブリオバトル 「読みたくなる」度を競い合う

11月23日(木)・祝に遊学館で行われた全国高等学校ビブリオバトル2017山形県大会で、池田朱莉さん(酒田東高1年・女鹿)が優勝し、全国大会への出場権を手に入れました。



池田朱莉さんの紹介した本「もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら」

ビブリオバトルは面白いと思った本を紹介し、最も「読みたくなった」本がチャンプ本となる大会。池田さんは「もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら」という本を紹介。「人によって全然紹介の仕方が違って面白いと感じました。代表として、恥じないようがんばってきたいと思います」と抱負を語りました。



ふるれと想ひびと

第21回

ひとりでも多くの方の力に
なれるように

現在のお仕事について

小学校の頃に町探検等で消防署の方にお世話になった時や、祖母が病気に倒れ、救急隊の方に対応してもらった時に消防士に憧れを抱くようになり、高校卒業と同時に消防士になりました。現在は川崎市消防局に就職し、市内に27隊ある救急隊の救急隊員として勤務しています。近年、救急件数は全国的に増加しており、川崎市内では昨年約7万件的救急出場をしています。私も過去約3千件の救急出場に携わり、多くの方を救急搬送させていただきました。日頃より、生命に携わる仕事であることに責任と自覚を持ち、救急活動や訓練に励んでいます。今後も、子



川崎市消防局 宮前消防署
野川出張所 救急隊
さとう こうよう
佐藤 耕陽さん
(岡田氏引)
平成4年11月生



救急隊として、責任と自覚を持って活動しています。

遊佐町へのメッセージ

消防士として市民と接する中で、遊佐町で学んだものの全てが活かされていると感じています。遊佐町は、自然に溢れ、名産品に溢れ、人情に溢れている町です。神奈川県に出てきて、その想いがとても強くなり、毎回の帰省がとても楽しみで仕方ないです。そんな遊佐町が万が一、震災や災害に見舞われた際、遊佐町出身者のひとりとして、消防士として、上京してがんばっている方々、町民の方々、みんなさんと力を合わせ、遊佐町を支えていけたらと思っています。

どもたちが憧れるような消防士をめざしていきたいと思っています。

鳥海山・飛鳥ジオパーク リレーコラム

「日本海と大地がつくる水と命の循環」

《第37回》

楽しく活用ジオパーク



東北公益文科大学
特任講師

中原 浩子 氏

ジオパーク構想推進協議会が秋田県と山形県の3市1町で設立された平成27年3月、地域で「ジオパーク」の認知度は全体の約1%程度でしたが、今では80%以上になったと感じています。しかし、「ジオパークって何をするの?」という問いに答えられる人はまだ少ないのが実情ではないでしょうか。ジオパークは地域が主体となつて活用していくものであり、具体的にはジオサイトの生い立ちや仕組み、そこから生まれた生活文化などを学ぶジオツアーや教育プログラムなどへの展開と防災、保全に関する取り組みが考えられます。他のジオパークでは、小中学校の理科や社会の授業に取り入れられたり、高校ではクラブ活動になっているところもあります。



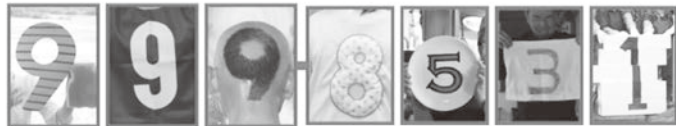
小学校での出前講座の様子

鳥海山・飛鳥ジオパークエリア各地で住民による「ジオパーク研究会」や「ジオ倶楽部」が設立され、それぞれがネットワークでつながると楽しいですね。また、ジオサイト特有の「ジオラレーメン伏流水」「ジオラレーメン玉簾」とか、「ジオカレー鳥海山」など自由な発想でメニューを作るのもワクワクします。『知って、学んで、好きになる』それが、ジオパークです。私たちのジオパーク、難しく考えずまずはみんなで楽しく活用しましょう。

山形ふるさとCM大賞2連覇を達成!!

遊佐町ふるさとCM『日本でイチバン大きい数の町』

郵便はがき



山形テレビ (YTS) が主催する『第18回山形ふるさとCM大賞』にて、遊佐町のCM『日本でイチバン大きい数の町』が大賞を受賞しました。



史上初の2連覇達成

山形テレビ (YTS) が主催する『第18回山形ふるさとCM大賞』にて、遊佐町のCM『日本でイチバン大きい数の町』が大賞を受賞しました。昨年のふるさとCM『山形のおでこ』での大賞受賞に引き続き、2年連続の大賞受賞となります。

第18回大賞
『日本でイチバン
大きい数の町』



第17回大賞
『山形のおでこ』

山形ふるさとCM大賞の2連覇は今までに前例がなく、史上初の快挙。今回の受賞により、県内で年間365本、東北他県で年間100本、その他5県で年間25本の放映権を獲得することができました。

今年のテーマは『郵便番号』

皆さんは、実は遊佐町は日本で一番郵便番号が大きい町なのを知っていましたか? 『999』から始まる遊佐町の郵便番号の中でも、最も大きな番号を持つ地区は西浜。ちょうど道の駅鳥海ふらっとのある辺りが『〒999-8531』、日本でイチバン大きい郵便番号を持っているのです!

今年は、今まであまり気がつかなかった身近な『日本一』をテーマに、軽快でノリの良い音楽とコミカルな映像で遊佐町をPRするCMとなっています。

多くの方から ご協力いただきました

遊佐町の魅力を伝えるべく、今年のおふるさとCMにも多くの方から出演していただきました。また、直接出演された方以外にも、キャストティングや小道具、撮影舞台の手配など、多くの方からご協力いただきました。また、今年も総勢6名の地域おこし協力隊の皆さんから参加いただきました。

『郵便番号』というテーマは、町外から来た協力隊ならではの発想ではないかと思えます。遊佐の人なら聞き覚えのあるかもしれません。声でCMの曲を歌うのは、昨年に引

き続き地域おこし協力隊の藤川かな奈さん。また、今年度から地域おこし協力隊になった林晶さんからは作務衣姿で出演していただいています。他の地域おこし協力隊の皆さんも毎週の会議に参加していただき、どんなアイデアを出したり、その人脈を活用してキャストティングやロケハンを行ったりと大いに活躍されました。



皆様のご協力のおかげで、最高の結果を得ることができました。

まさに、遊佐町の魅力が『きゅつ』と詰まったふるさとCMとなりました。たくさんのご協力、本当にありがとうございました。

ふるさとCMや審査会の様子は、山形テレビのHPからご覧いただけます。
URL: <http://www.yts.co.jp/>

